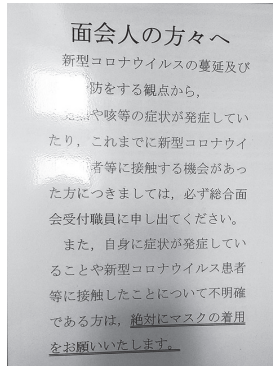

面会人の方々へ

新型コロナウイルスの蔓延及び
防をする観点から，
や咳等の症状が発症していたり，これまでに新型コロナウイ
者等に接触する機会があった方につきましては，必ず総合面会受付職員に申し出てください。

また，自身に症状が発症していることや新型コロナウイルス患者等に接触したことについて不明確である方は，絶対にマスクの着用をお願いいたします。

東京拘置所に張り出されている注意書きです

東京拘置所というクルーズ船
出口の見えない「人質司法」
死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）
東京都荒川区南千住1-59-6-302
http://sobanokai.my.coocan.jp/

ホテルに宿泊していて、突然**「この部屋から出るな」**と命じられたら誰しも驚き、怒ることでしょう。

丁重に**「新型ウイルスに感染する恐れがありますから」**と説明されれば、その事情に理解はできても、釈然としないものが残ります。多分、数時間後には、**「自分はいつまで我慢しなければならないんだ!?」**と、あちこちの部屋のドアが叩かれそうです。**「あなた自身がすでに感染している可能性が高いのです。あなた自身が他人を感染させる可能性が高いので、あなたを隔離しています」**という回答に、**「私が何をしたっていうんだ!? それは私の責任か?」**と叫びたくなるかもしれません。

でも、どうしたって扉は開けてもらえません。**「だったら、せめて、食事や情報をちゃんと提供しろ、仕事にいけない補償をしろ!」**と要求する声が日を追うごとに高まっていくでしょう。**「お気の毒ですが……」**と対応している職員もまた、ホテルの外には出られないようです。

★☆★

2月4日、横浜港に帰港しながら、下船を許されず、長期間の隔離を命じられた「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客（2666人・他に1045人の乗務員）は、移動の自由を奪われて過ごさなければなりませんでした。

★☆★

拘置所は、主に未決囚（刑が決まるまでの裁判中の被告人）の逃亡や証拠隠滅を防止するために身柄を拘束している施設です。

小菅の東京拘置所は約3000人の定員を持つ日本で一番大きい拘置所です。職員数が約1000人と聞きますから、規模としてはクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」に近いかもしれません。

★☆★

拘置所に収容されている人たちは、「逃走」及び「罪証隠滅」の防止を目的として、拘禁されているわけですが、さらに、「施設の規律秩序を維持するため」という名目がついて、「無罪推定」というにはほど遠い様々な制約を課せられています。弁護人でない一般の人との交流は「罪証隠滅」の可能性があるということで、面会や文通の内容が全てチェックされます。重大事件となれば、判決が近くなるまで「接見禁止」が付けられて、家族や友人との関係を断たれた孤独で不安な長い時間を耐えなければなりません。

そんなときに**「自分がやったと認めれば、すぐに出られるんだよ」**と悪魔が優しい顔で囁くわけです。これが、カルロス・ゴーン氏が批判してやまなかった日本の「人質司法」です。

★☆★

「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客の日本人女性が取材に答えてこう言っています。**『日本で良かった』というのが本音。…（略）…海外で同様のトラブルに巻き込まれていたら、心配で眠れないでしょうね」**。（AERA dot. 配信記事）

終りの見えない眠れない日が続く、ましてやそれが、異国の拘置所での生活だったらどんなに辛いことでしょう。

「やっていない罪を自分から認めるはずがない」「自白しておいて後から否定するなんて卑怯な奴だ」……そんなふうに思っている人がいるかもしれません。自由を奪われるということの具体的な辛さと、自由を奪うことに伴う責任の重さを、改めて考えさせられます。（J）

No. 268/2020/3/21/300